

総合心療センター 看護

近森病院副看護部長 武田直子

看護部体制

近森病院副看護部長が心療センター看護全般を担当。

外来（精神科、心療内科、ストレス外来）；主任1名（副看護部長補佐）

精神科急性期治療病棟（1単位2フロア）；看護師長1名、看護主任1名、主任代行1名（精神科認定看護師取得のため受講、実習中で不在が多く、主任代行を立てて運営）

デイケア（パティオ）；看護師長1名

外来と病棟、病棟間の看護連携を強め、必要に応じて部署間でスタッフが勤務（リリーフ）できる体制をとっている。患者主体の看護の展開のために、患者参画（協働）型の看護計画に取り組み、実践することができた。

すべての部署で地域連携や病病連携をすすめ、精神科に対応した地域包括ケアシステムにおける精神科急性期看護の役割を果たしている。

近森病院看護部として、各種委員会に参加し、病院全体の役割を遂行し、心療センター内では各分野でのリーダーを担っている。（教育、医療安全、感染管理、退院支援、地域連携、業務改善、倫理カンファレンスなど）

精神障害者の地域移行・定着を推進し、地域生活を支援する

2023年も引き続き、感染症対策を強化し、デイケア、外来をストップすることなく診療、支援を継続することができた。新規患者の診療は月平均50件の依頼が続いており、医師の数が増え受け入れ体制は充実したが、医師と検討し内容的にお断りすることも多かった。精神科（心療内科、ストレス外来）には神経症、発達障害、依存症、思春期、認知症など社会的なニーズが高まっており、年齢も低年齢から高齢者までと幅広い。また、他病院や施設や地域、行政、警察など他機関からの相談も多岐にわたるため、医師の診療だけでなく看護外来など、支援できる体制をつくって対応した。（療養生活継続加算、療養環境整備加算）

急性期病院の精神科の機能を強化し、役割を果たす

リエゾンチーム活動では、精神科認定看護師、外来看護師が精神科医、公認心理師（臨床心理士）、作業療法士、PSW（精神保健福祉士）とカンファレンスを実施しながら介入にあたった。急性期（DPC）病院において、早期退院を妨げないように患者、家族、スタッフを支援し、タイムリーな介入に心がけた。本年度より、専門看護師1名が本院所属となり、救命病棟にてリエゾンの早期介入ができ、件数が上がり、継続的に関わることもできた。

高知市の精神科救急医療事業（土日祝日の輪番体制）を担い、師長、主任が当番を担当し、時間外入院を受け入れた。

教育活動にかんして 看護学校その他非常勤講師（近森病院看護部参照）

感染症の影響から、OJT教育を強化して、病院の対応を遵守し、教育活動を展開した。

臨床実習の受け入れも工夫して、4つの学校からの受け入れを行い、後進の育成に努めた。看護学校の授業には主任、リーダーナースが分担して実践をもとにして講義を担当した。